



ロシアの論理  
～復活した大国は何を目指すか～  
武田善憲著

---

110781027 鈴木 瑛

# 目的

現代ロシアの実態を直視

→背後の存在する  
ゲームルールを確認



# 第1章

## 内政—与えられた職務に専念せよ—

### a、権力の継承

2006年ロシアの大統領選挙

Option1ロシア憲法順守

→プーチンからメドヴェージェフ

Option2ロシア憲法無視

→プーチン3期目突入

大統領より上位の権力地位作

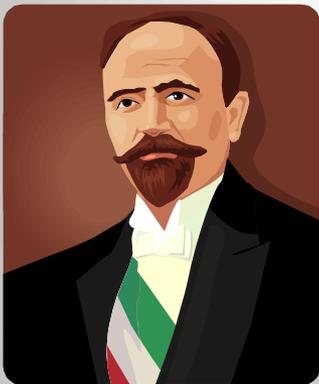


## b、大統領の権威

ア、プーチン大統領の絶対的権威の存在理由

→新しい大統領像の構築

i 勝手な政治への圧力「オリガルヒ」  
(新興財閥) 追放



ii 安全保障会議

→「口が堅い」機関

→最重要決定権の確立

## イ、大統領府の絶対的権威

→ 首相府への一方的圧力

→ 首相府と大統領府の思考錯誤

→ 政府の機能不全の理由

i 構造的な問題

ii 個別の省々への不期待

iii 政府のスケープゴート化

## 第2章

# 外交—多極主義と実利主義—

### a、旧ソ連諸国

旧ソ連諸国→独立国家共同体



Lenin

→現ロシア外交の最重要項目

## b、アメリカ

冷戦下の二国間関係終焉

→新しいプラグマティックな目標関係

18年後の現在

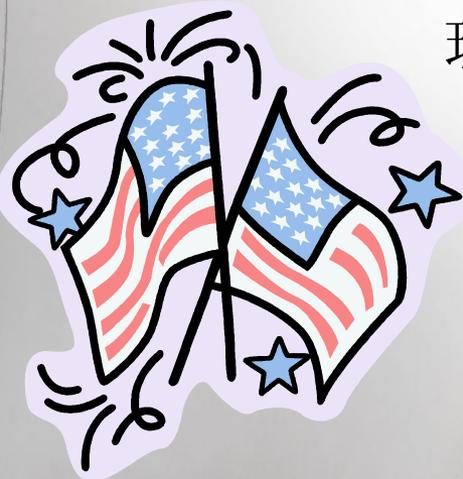
→プラグマティックな関係とは敬遠

理由1) 両国の経済的相互依存度が低下

→ビジネスパートナーとしては未認識

2) 両国が戦略的視点で無視不可

→世界でも有数の核弾頭保有数



### c、ヨーロッパ

ロシアとEU、ロシアとNATO

→軍事的経済的な面での対立

⇔ヨーロッパの対応仕方で変動

### d、アジア

中国、インドとの関係

→対アジア政策 1) 実利主義

2) 多極主義

# 第3章

## 経済・エネルギー

### —天然資源による国力増強—

#### a、プーチン政権2期目

経済の最重要項目は天然資源(石油・天然資源)

ア) 法律関係 昔) 採掘権の法律制定に数年  
今) 遅くて数か月で決定

イ) 事実上国有化

ニコス事件(大企業ニコスの汚職による国有化)

→ 表向きは企業の買収 → 国営企業化



## b、メドヴェージェフ政権

ア)プーチン政権の引き継ぎ政策

イ)リーマンショック

(米国投資銀行リーマン・ブラザーズが  
破綻した事件)

→自ら陣頭、オリガルヒ叱責



## 第4章 国民生活

### プーチンの優先国家的政策

理由ア) ロシア発展の方向性の明確化

イ) メドヴェージェフが主任に就任

i) 教育 グローバル化

ii) 住宅 住宅建設の奨励と援助

iii) 保険 社会保険の改善

# 結論

ロシアにはプーチンの存在が必要？

アメリカの研究者 予想「プーチンが死亡」

→ロシアの基本的政治構造は不変



Putin

理由 i ) 現在のロシアは発展途上

ii ) 精神的金銭的に豊かな国家の建設